

# 教室だより

佐渡市立金井小学校  
佐渡ことば・こころの教室  
平成20年7月11日  
第737号

〒952-1209 佐渡市千種155  
：0259(63)4156(直) 4115(代) FAX：4117  
<http://www.sado.co.jp/kanaisyo/> E-mail：kanai es@sado.ed.jp



梅雨に入り，すっきりしない空模様の日が続いています。人間にとっては少々うっとおしい雨でも植物たちにとっては恵みの雨。田んぼの稲も一段と緑色が濃くなり，葉をぐんぐん伸ばしています。もうすぐ水面や土は見えなくなるでしょう。見えないところで稲を支える土のような指導を，私たちは心掛けていかなくてはと思います。

## 支援を考える

最近の商品や施設の多くはユニバーサルデザインが取り入れられています。これらは，国，年齢，性別等の違いや障がいの有無等に関係なく，全ての人にとって分かりやすく，利用しやすいように設計されています。例えばノンステップバスは足が不自由な人はもちろん，高齢者や小さい子どもにも使いやすく，全ての人にやさしいと言えます。

似ている言葉にバリアフリーがあります。すでに存在するものを，高齢者や障がいのある人にも利用できるようにするのがバリアフリーです。はじめから誰に対してもバリアを生じさせないよう設計されたのがユニバーサルデザインです。

特別支援教育というと，特定の子だけに何か特別なことをするというイメージが強いと思います。もちろん特定の子どもへの支援も場合によっては必要です。ですが，特別支援教育では「指示は簡潔に」「話し言葉より見て分かる工夫を」のように，実は他の多くの子どもにとっても有効な手立てが多いのです。特別な支援を必要としている子どもはどの学級にも在籍しています。全ての子どもにやさしいユニバーサルデザインの発想が，授業にも必要とされているようです。(中村)



## 分かってほしい！感じ方の違い

Aさんは，近ごろ，学級に居づらくなってなってきました。Aさんの後ろの席は，苦手なBさん。Bさんはやや背が低くて，Aさんの後ろから「見えません。」と言うことが多かったのです。苦手としている相手に何か言われることが，とてもとてもつらいAさん。自分がその席に座ることでBさんに迷惑がかかるとも思っていました。Aさんには，このことをノートに記入して担任の先生に伝えるように助言しました。「見えません。」と言われるくらい大したことではないと考える人が多いと思いますが，Aさんにとっては深刻だったようです。

席に関して，もう一つ。Cさんは，友だちのDさんが自分の席に間違えて座ったことが許せませんでした。Dさんは「間違えたくらい大したことじゃない。」と思い，軽く「ごめんね。」で済ませました。しかし，Cさんは「ぼくの席なのに！」という悔しい思いをため込んで，トラブルになってしまいました。物事に対する感じ方も，十人十色。気持ちを伝えること，感じ方の違いを理解することが大切だと痛感しました。(香遠)



## 会員の声 No.30

### 私が前向きになった理由 S・Y

わたしの息子はアスペルガー症候群です。3歳の保育園での入園式の集合写真には、白いガーゼハンカチを握りしめ、号泣している息子が写っています。息子はそのハンカチのことを「だいじ・だいじ」と言っていて、片時も離しませんでした。写真の時からいとは、無理にハンカチを取ろうとした結果の号泣でした。

ハンカチについては、「いつも持ってるよね。」と人から言われた一言がとても気になり、恥ずかしいと思うようになりました。思い切って療育相談の時に相談してみたところ、「この子がそれで安心できるのだから、無理に取り上げなくてもいいのよ。何か言われたら、そうなの好きなのよって言ってあげればいいのよ。」と、アドバイスをもらい涙が出ました。「そうか、それでいいんだ！」私の心の中の雲はパア-ッと晴れ、その日から前向きな子育てが始まりました。

今、息子は3年生。「だいじ(なハンカチ)」も要らなくなり、毎日外で元気に遊んでいます。子どもって必ず成長するのですよね。

S・Yさんからは、上記の原稿に次のような言葉が添えられていました。～私が前向きになれたきっかけである「そのままでもいいんだよメッセージ」を、同じように悩んでいるお母さん達に、ありのままの子どもを受け入れられるお手伝いができればと思い書きました。もし、療育相談を受けなかったら、今もめそめそ泣いていたかもしれません。「親が変われば子どもも変わる。」です！～

## お知らせ



### 夏季相談会・言語検査について

案内は関係機関には発送済みです。申込み締め切りは7月16日(水)となっています。希望される方はお早めにお申込みください。



### 子育てワンポイントアドバイス

～「よいこと-悪いこと」の区別を付けさせる1つの方法～



さまざまな場面で、子どもは「よいことをするのはお兄(姉)さん、いけないことをしてしまうのは赤ちゃん」と考えることがあります。よいことをして「お兄ちゃんになったね」と褒められると喜ぶます。お兄(姉)さん意識を育てるには、実際にお兄(姉)さんらしい行動を体験させていくのが有効です。具体的には、大人のお手伝いがいいでしょう。料理などちょっと難しいものや掃除機などの機械を使うものが人気です。そして、必ず「ありがとう。さすがお兄(姉)ちゃんだね。」と褒めてあげて欲しいと思います。